2022 年度活動報告書

札幌国際芸術祭実行委員会事務局

SIAF ふむふむシリーズとは？

札幌国際芸術祭（Sapporo International Art Festival 略称：SIAF）は 3 年に一度、札幌で世界の最新アート作品に出合える、特別なアートイベントで、次回は 2024 年 1 月 20 日から 2 月 25 日の会期で開催されます。札幌国際芸術祭実行委員会では、開催年以外にも継続的に SIAF の存在や、SIAF 関連プログラムについて広く市民のみなさんに知っていただくため、2021 年度から「SIAF ふむふむシリーズ」をスタートしました。

2021 年度は、過去の SIAF で主要会場となった文化施設等と連携し、「知ろう」、「体験しよう」、「共有しよう」の 3 つのステップで、展覧会をもっと楽しむプログラムを実施しました。

今年度（2022 年度）の SIAF ふむふむシリーズ

2022 年度は、初年度の「知ろう」、「体験しよう」、「共有しよう」の 3 つのステップにこだわらず、2023 年度の芸術祭開催を見据えて、開催年につながるような新たな視点や連携を作ることを念頭に、プログラムの実施を目指しました。

美術館との連携プログラムにおいては、道外からゲストやナビゲーターをお招きして、多様な来場者を想定し、各館ではなかなか取り組まれることのなかった新しい鑑賞プログラムを展開しました。

また、SIAF2024 の方向性を踏まえて、アートだけではなく、サイエンスやテクノロジーの意識から札幌市青少年科学館との連携も実施しました。

【2022 年度　SIAF ふむふむシリーズ　プログラム一覧】

＃ 1 “視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ”×札幌芸術の森美術館×SIAF…P.3～P.8

その 1：YouTube オンライントークセッション

｜2022 年 7 月 23 日（土）17:00-18:30

その 2：ワークショップ「美術を耳から目から体験してみよう」

｜2022 年 8 月 27 日（土）実施

その 3：ゲイモリぶらぶらしてみた報告会 in SCARTS

｜2022 年 8 月 28 日（日）実施

＃ 2 “手話マップ”×北海道立近代美術館×SIAF…P.9～P.15

「シュワー・シュワー・アワーズ in 北海道立近代美術館-手話と日本語で楽しむ鑑賞会-」

｜2022 年 10 月 15 日（土）・16 日（日）実施

＃ 3 札幌市青少年科学館×SIAF …P.16～P.17

「ディレクター編」、「プラネタリウム編」、「サイエンスショー編」の 3 つの YouTube 動画を配信

#１“視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ”×札幌芸術の森美術館×SIAF

１：YouTube オンライントークセッション

◯日時　2022 年 7 月 23 日（土）17:00 -18:30

◯参加方法　YouTube ライブ配信

◯スピーカー

視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ｜林 建太、衛藤 宏章

札幌芸術の森美術館 学芸員| 佐藤 康平、山田 のぞみ

◯接続回線数 92 回線

2：ワークショップ「美術を耳から目から体験してみよう」

◯日時　2022 年 8 月 27 日（土）10:00-12:30、15:00-17:30

◯会場　札幌芸術の森野外美術館

◯参加人数　14 人

3：ゲイモリぶらぶらしてみた報告会 in SCARTS

◯日時　2022 年 8 月 28 日（日）11:00 -12:30

◯参加方法　会場直接参加と後日アーカイブ動画視聴いずれかにより参加

◯スピーカー

視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ｜林 建太、衛藤 宏章、花宮 香織

札幌芸術の森美術館 学芸員| 佐藤 康平、橋本 柚香

札幌視覚障害者福祉協会| 小宮 康生

◯参加人数　会場直接参加 17 人、アーカイブ動画視聴回数 119 回線（2023 年 3 月 30 日時点）

４：参加者からの声

■YouTube オンライントークセッションの参加者

・まっすぐモードとぶらぶらモードなど、優しくわかりやすい言葉でいいなと思いました。ひたすらに説明することだけでなく、うまく言語化できないということ、思わず出てしまうような言葉や、反応も貴重な情報なんだと思いました。どちらにも偏りすぎず柔軟に、多面的に情報を盛り込み伝えるということは、目の見えない人に限定せず、何か自分が見聞きしたものを見ていない人に対して伝えようという時に大事な能力だと思いました。

・コミュニケーションについて考えるきっかけをいただきました。アートが、アートの分野ではたらきを持っている方々にとどまらず、幅広い方々にとってもコミュニケーションについて考える機会になると改めて感じる機会をいただきました。

・自分もいつか視覚を失うかも、という想像をときどきするのですが、その中で文化芸術を楽しむ方法があるのかも！と嬉しくなりました。視覚障がい者の方はこういったイベント情報に、どのようにたどり着いているのか気になりました。

・林さんがおっしゃられていた、ネガティブな感想も含め、参加者が気楽に作品について語ることができる場を作ることを心掛けている、ということが印象に残りました。参加する人たちの緊張をほぐしたり、ウェルカムな雰囲気を共有するために、具体的に行われていることなどがあれば是非伺ってみたかったです。

■ワークショップ「美術を耳から目から体験してみよう」の参加者

・参加者の方々と意見や感想をあれこれ話しながら全身を使って鑑賞することができ、とても楽しかったです。

・いつも子どもたちに作品についての感想や、発見した事を聞く側でしたが今日実際聞かれる立場にあり言葉にするのはとても難しいと思いました。沈黙、言葉にならないというのもあるという言葉に救われました。

・多くの視点で作品を見ることの楽しさを実感しました。見えないからこそ気がつくこと、まわりを見わたすとわかること、語れば語るほど深まること、すべての感性がとても美しく新鮮でした。

・集合場所が少しわかりづらいと感じた参加者の方がいたようなので、バス停名、バス停からの所要時間、行き方などがメールでインフォメーションがあっても良かったのかな、と思いました。

■ゲイモリぶらぶらしてみた報告会 in SCARTS の参加者

・「まっすぐモード」と「ぶらぶらモード」の両方の鑑賞スタイルがあることが勉強になりました。先日、視覚障がい者の方が写真美術館に行くというラジオで、「沈黙が楽しみ」というお話を聞いて、鑑賞者から発される言葉への期待と場が持つ空気を味わうことの面白さがあるのだと知りました。今回は視覚という側面にフォーカスされていますが、多様な方々が芸術を楽しめること、芸術を通してコミュニケーションを図れることがますます盛んになっていくといいなと思います。

・障がい者を取り込んだイベントを、もっと企画実行してほしい。

・（アーカイブ視聴者からのコメント）
ワークショップでどのようなことが語られていたかわかってとてもよかったですが、ワークショップの様子そのものを配信していただけると、なお嬉しいです。

5：関係者からの声

■札幌芸術の森美術館　佐藤 康平さん

◯SIAF と連携プログラムを実施してみて良かった点

様々な要因によって自分たちだけではできない新しいことを、まずやってみる、チャレンジして実験してみる、というスタンスで手掛けるきっかけとすることができた。SIAF 事務局という、内部でもなくかといって外部でもない、また行政の担当課とも違う絶妙な立ち位置のスタッフの視点は、館内だけでは凝り固まりがちな思考に対し、新たな気付きを得られ、協同で事業を実施することでプログラムの練度をあげられた。

◯今後同じようなプログラムを実践していくにあたっての課題

視覚障がいがある方を対象にしたものを含め、ワークショップなどのプログラムを実践していく場合に、経常的に行っている展覧会事業や教育普及事業もあるため、自分たち(館のスタッフ)だけでは人的・予算的リソースが限られてくる。その上で、事業実施における協力者を得ること、協働体制をつくること、そして参加者や当事者たちとどうつながっていくか、どこに出会いの場を求めていくかということが課題となる。

◯その他感想

課題と同様であるが、今回つくり出せたひとつの芽を、育てていくことが大事なので、今後心掛けていきたい。

■視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ　林 建太さん

◯SIAF と連携プログラムを実施してみて良かった点

ワークショップ当日だけでなく、実施前の準備で考えたことや、実施後の振り返りを公開できたことがとても良かったです。地元の会場でのトーク形式だけでなく、広くオンラインで公開することで遠く離れた人や当日来られなかったたくさんの人に視聴していただけたことを嬉しく思います。その結果、札幌近郊で活発に活動している当事者団体の皆さんにも知っていただき、今度はそのみなさんが芸術の森で鑑賞会を行うそうです。ワークショップの前後のプロセスも公開することで、いろんな方とノウハウや迷いをもキャッチボールのように交換できました。一つのプログラムがその場所に根ざした魅力的なプログラムに変わっていくことを楽しみにしています。

■札幌市視覚障害者福祉協会　小宮 康生さん

◯SIAF と連携プログラムを実施してみて良かった点

長年の実施経験を持つ「視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ」のスタッフに来札いただき、参加者が実際にワークショップを体験し、そのノウハウを伺えたことは、とても有意義だったと思います。障がい者とのイベントというと福祉的な要素が強くなってしまいがちですが、一緒に、そして新たな気づきの可能性を拡げてくれる活動がある事を知っていただき、ここ札幌でも行われるようになることを期待します。

◯今後同じようなプログラムを実践していくにあたっての課題

イベントなどで視覚障がいの方の参加を募る時は、ヘルパー確保などもあるので、できるだけ早く広報いただければありがたいです。また、スマホやパソコンなどを使えない視覚障がいの方も多いので、広報の方法も Web、SNS の情報だけではなく、多様な情報発信をしていただけるとありがたいです。

◯その他感想

今回参加させていただき、本当にありがとうございました。今後もできることがあれば、喜んで協力させていただきます。面白い企画を期待しています。

#2 手話マップ×北海道立近代美術館×SIAF

1：シュワー・シュワー・アワーズ in 北海道立近代美術館-手話と日本語で楽しむ鑑賞会-

〇日時　2022 年 10 月 15 日（土）10:00-12:00
　　10 月 16 日（日）10:00-12:00、14:00-16:00

〇会場　北海道立近代美術館

〇鑑賞した展覧会　近美コレクション「北の美のこころ」を携えて

〇参加人数　合計 27 人

2：プログラム広報

■日本手話・日本語字幕付きプログラム紹介動画

手話マップ木下 知威さんによる日本手話・日本語字幕付き動画でプログラムを紹介

動画視聴回数 217 回線（2023 年 3 月 30 日時点）

https://www.youtube.com/watch?v=O2PI4AzgX9U

■プログラム告知フライヤー

札幌聴覚障害者協会や道内の聾学校等にプログラム告知フライヤーを配付

配付先計 5,525 部

3：参加者からの声

・ファシリテーターをろうあ者が実施するという形が非常に面白いと思った。普段ゆっくりと考えながら作品を見る機会があまりなかったので、大変いい時間を過ごすことができました。地域のろうあ者にもこうしたイベントを紹介していきたいです。

・なかなか意欲的な取り組みのように思いました。ただ、解説に情報保障ということだけでは、手話で世界を切りとる文化を持つ人達にとって、本当に楽しめる芸術となりえるのだろうか、という疑問は改めて持っています。そのあたりのろう者の認識や文化に焦点をあてた取り組みなど期待します。

・今までこのような行事に参加したことはありませんでした。いつも美術館に行った時には、1 人で見て鑑賞して終わっていましたが、今日のイベントは鑑賞して終わりだけではなく、鑑賞後に皆さんと一緒に意見交換や感想について対話ができたので、自分と他の人との考えが違うということ、他の人の話を聞いてそういった見方があるんだなということで、とても勉強になりました。楽しかったです。もしまたこのようなイベントがあれば参加したいと思います。

・私は今まで美術館に行くのが苦手でした。（美術館に）行っても結局ストレスがたまって帰ってくるということがたくさんありました。ですが、今日参加してみて少し自分の見方が変わりました。好きになりました。よかったです。自分の意見だけではなく、他の人と意見交換してもっともっと美術鑑賞が好きになりました。

・音に関する絵についてみんなで話していた時に、僕とか耳が聴こえる人は「ピアノはこういう音、バイオリンはこういう音、だからオーケストラはこんな雰囲気だよね」という感じで、（その楽器でどんな音が奏でられるのか）知っているから、こういう音に関するコメントを耳が聴こえる側の視点で話しているからできているということがあり、一方、聞こえない人たちにとってはそれがよくわかっていなくて、イメージで音を見ているというのが、違うんだなと思った。こういう部分が違うんだという発見が生まれたし、それが新しい見方に繋がるというのは大きい収穫だと思います。

４：関係者からの声

■北海道立近代美術館　中村 聖司さん

◯SIAF と連携プログラムを実施してみて良かった点

障がいのある方に向けて美術鑑賞の機会を創出することは、美術館にとって重要な課題。今回の連携によって、これまで取り組んだことのない方々を対象とし、また、当事者とともにプログラムを実施できたことはとても良かった。

◯今後同じようなプログラムを実践していくにあたっての課題

・当事者の方と協働する体制と経費の準備。
・より多くの方が参加したり楽しんだりできるプログラムの考案。

■北海道美術館協力会（アルテピア）　福島 靖代さん

◯SIAF と連携プログラムを実施してみて良かった点

聴覚障がい者への解説は初体験でしたが、事前打ち合わせが行き届いていましたので、余り戸惑うことなく実践することが出来ました。経験してみて感じたことは、美術という世界を健常者だけのものではなく、障がいを持っている人たちと共に同じく美術の素晴らしさを共有できることは大切だと思い、またそうしたことが当たり前になることが理想だと思いました。手話の方々の努力なくては出来ないことですが…。

◯今後同じようなプログラムを実践していくにあたっての課題

聴覚障がい者への解説を行う場合、事前に手話の方と研修することが必要に思いました。彼らの障がいそのものをよく分かっていませんので、説明する時に不適格な言葉はあるのか、またそれを補うにはどのように表現を変えるべきか等、教えていただきたい。手話の方とのコミュニケーションを図り、実践の場でのリズムや速度（解説者と手話の方との呼吸）など、事前研修があると良いと感じました。

◯その他感想

今後、こういった取り組みが色々な場所で行われると、周りの理解度が一層深まるのではないでしょうか。私たちは視覚障がい者への対応マニュアルを作成し、常に研修を重ねています。聴覚障がい者に対してもそうした準備が必要なのではないかと考えます。

■札幌聴覚障害者協会　渋谷 悌子さん

◯SIAF と連携プログラムを実施してみて良かった点

・このプログラムに参加していた聞こえない方と聞こえる方が、情報保障があり、一緒に作品鑑賞ができることは貴重と思いました。

・手話通訳者としては、情感豊かな解説の手話表現はとても難しく、表現力も必要になります。本番では直にろう者の反応が理解できたことや、ファシリテーターの方（2 名）の配慮に助けられ、最後まで、通訳者も楽しみながら対応させていただきました。

◯今後同じようなプログラムを実践していくにあたっての課題

・「対話型の解説」に手話通訳を付けたことは今回が初の試みであったと伺いましたが、手話通訳者としても、美術に係る知識が必要であると感じました。事前学習が欠かせないと思いました。

・美術館内でも聴覚障がいに対する配慮や情報保障があると、日頃から身近に感じて鑑賞する方が増えるのではないかと思いました。

・障がい当事者と共に、どのような関わりが必要であるのかを協議できる場面もあるといいと思いました。

◯その他感想

・美術関係の専門用語や作品鑑賞中の解説時の手話表現などは、特に難しいと感じました。解説部員の方と歩調を合わせながらアイコンタクトで進めましたが、どこまで鑑賞しているろう者に理解していただけたのかと思いました。通訳者にとっても未知数であり、研究が必要と思いました。

・今回の企画を通じて、学芸員や解説部員の方々の専門性の高さに触れることができ、逆に学びの時間に感謝しております。

・参加したろう者の方々年齢も様々でしたが、若い学生の方から「音のない世界の方と、自分の音を感じて視る条件では、違いがあることに気が付いた」という感想もあり、このプログラムのねらいがしっかり伝わっていることが理解できました。

■手話マップ　木下 知威さん

◯SIAF と連携プログラムを実施してみて良かった点

北海道立近代美術館と SIAF と共にシュワー・シュワー・アワーズを開催し、美術館における手話に関するイベントの可能性を提案できた点を評価しています。北海道立近代美術館のコレクションについて、作品選定やプロセスについて充分な議論を展開でき、参加者の評価が高かった点も評価できます。また、SIAF 事務局は札幌聴覚障害者協会とともに広報にも熱心に取り組んでくださり、広く周知できたと考えています。

◯その他感想

札幌市は、2018 年に「札幌市手話言語条例」を施行しており、全国でも手話に関する取り組みを熱心に推進している地域です。引き続き、手話のあるイベントを SIAF で推進していただき、異なる言語を話す人たちが平等に意見を交換できるような機会として定着してほしいと願っています。結果的に SIAF の知名度向上につながり、共生社会の実現につながることを期待しています。

■手話マップ　小笠原 新也さん

◯SIAF と連携プログラムを実施してみて良かった点

北海道で初めて作品解説、対話型鑑賞に手話通訳を採り入れたことにより、道民の聞こえない人たちが手話を通して美術館やアート鑑賞を楽しめるきっかけにもなれたのではないかと自負しています。また、他の聞こえる人たちにも聞こえない人とともにアート鑑賞を楽しめること、美術館やボランティアたちにも聞こえない人向けの鑑賞プログラムの可能性が伝わり、それが札幌国際芸術祭への道しるべにもなれることを期待しています。

◯その他感想

道民の参加者たちと対話して思ったのは、聞こえる聞こえないに関係なく参加者たちの言葉がしっかりと心から出ているという印象が強かったです。それはあたかも大地に根差したようなものであり、ファシリテーターとしてもその言葉たちに逆に支えられたり揺さぶられたりすることもしばしば。北海道の大自然や道民を支える大地の強さを感じました。

#3 札幌市青少年科学館×SIAF

3 つの YouTube 動画プログラムを配信

1：ディレクター編

出演：小川 秀明｜SIAF2024 ディレクター

動画視聴回数 262 回（2023 年 3 月 30 日時点）

https://www.youtube.com/watch?v=tYFdxB-dcss

2：プラネタリウム編

出演：樋山 克明｜札幌市青少年科学館 プラネタリウム担当

動画視聴回数 495 回（2023 年 3 月 30 日時点）

https://www.youtube.com/watch?v=QVcxSh4D2UE

3：サイエンスショー編

出演：氣田 幸和・本間 玲｜札幌市青少年科学館サイエンスショー担当

動画視聴回数 386 回（2023 年 3 月 30 日時点）

https://www.youtube.com/watch?v=Fr1P4F6Hcf8

4：関係者からの声

■札幌市青少年科学館　石丸 和正さん

◯SIAF と連携プログラムを実施してみて良かった点

まずは科学館をＰＲできたことがよかったです。現在科学館は展示物リニューアル等のために長期休館に入っており、市民に科学館の存在を忘れられないような活動を継続して行っています。国際芸術祭と科学館の接点は今回が初めてとなりますが、異業種とコラボすることで、活動の幅が広がったと考えております。例えば動画撮影の際のインタビュー内容などを聞いて参考になる部分もありましたし、「科学と芸術の関わり方」について考える機会となりました。

◯その他感想

当館のリニューアル後も何かしらの形で関わっていけたらと考えております。

2022 年度 SIAF ふむふむシリーズ活動報告書

発行
2023 年 6 月

撮影
詫間のり子

編集・発行
札幌国際芸術祭実行委員会事務局
〒060-0001　札幌市中央区北 1 条西 2 丁目札幌時計台ビル 10 階
TEL: 011-211-2314　E-mail: info@siaf.jp　WEB: https://siaf.jp

無断転写、転載、複写は禁じます